

論題	京都本法寺墓地の無縁石造物について
著者	古川元也
掲載誌	神奈川県立博物館研究報告—人文科学— 第33号
ISSN	0910-9730
刊行年月	2007年(平成19年)3月
判型	A4(210mm × 297mm)

【研究ノート】

京都本法寺墓地の無縁石造物について

古川 元也

【キーワード】 京都 日蓮宗 本法寺 石造物 中近世移行期

【要旨】

本稿は、科学研究費補助金の助成を得て行われた、京都日蓮宗本山本法寺墓地の無縁石造物群の調査所見について報告するものである。

本法寺は洛中に存在する日蓮宗本山のひとつであり、中世以来の由緒をもつ寺院である。本阿弥光悦に代表される中近世移行期の文人からも崇敬をうけ、都市京都に文化的な側面からも大きな影響力を与えてきた寺院ともいえよう。洛中日蓮宗寺院の墓地には当該期の無縁墓石が多数合祀されており、その意義については先稿においてすでにのべた。これら無縁石造物はこれまで悉皆的な公的調査はなされていないものの、紀年銘を見る限りでは永正期から天正・文祿・慶長・元和期へと及び、中近世移行期の石塔造立を裏付ける資料が連綿と遺されているといえよう。摩滅しつつあるこれら金石資料を現段階でまとめおくことが本稿の第一義である。本稿の中心をなす一覧表にはこのたび本法寺で行われた調査の結果得られた、石造物の形態的・時代的特徴を記してある。

併せて、既報告の妙覚寺墓地無縁石造物のうち、遺漏分も併せて掲載する。これらは集積合祀されてはいないものの、調査対象墓石であり、墓域内に散在しているものである。

なお、洛中日蓮宗各本山の無縁墓石調査については、既に妙覚寺についての所見を報告しており、一連の調査における問題設定等はそちらを参照していただきたい。

はじめに

本稿は、科学研究費補助金を得て継続的に行っている京都所在の日蓮宗本山本法寺墓地の石造物を調査した結果を記すものである。当該石造物はいわゆる無縁墓石として合祀され、法名と没年を記すにすぎないものが多いが、都市における信仰の具体的ありようを伝える史(資)料は少なく、中近世移行期の京都を解明するための手がかりとして記録しておく必要性はあろうと考えている。<sup>①</sup>

これら石造物は、無縁墓石であるという性質上、優品対象の調査からも漏れ、自治体による悉皆調査にも対象とはされていないものである。<sup>②</sup>近年、部分的にはあるが、これら日蓮宗系墓地の石造物調査が行われはじめている。<sup>③</sup>しかしこれらは寺史の一部として、また墓石の形態変化に力点を置いて報告されているものである。墓所については、中近世移行期の寺院の動きまでを連続的に考察に入れた論考は少なく、石造物の観点からも優品主義的であって、中近世移行期の石造物を中心に取り上げているものではない。

本稿では、妙覚寺での調査に引き続き、本法寺墓地の中近世移行期に造立された墓石について報告する。また、無縁墓石の紀年銘を極力読み込むことによって、金石資料としての重要性を指摘するものである。<sup>④</sup>

# 一 本法寺墓地調査の概要と所見及び評価

## 1 概要

調査は日蓮宗本山本法寺の許可を得て、予備調査を平成十八年三月十七日に、本調査を八月二十二日～二十四日、九月二十九日～十月一日、十月十五日～十七日にかけて、九日間にわたり同寺の墓地で行った。本法寺は京都市上京区小川通寺之内上ル本法寺前町六一七番地にあり、堀川通と小川に挟まれた寺域をもつ。周辺には妙顕寺、妙覚寺、妙蓮寺といった洛中の有力日蓮宗系寺院が存在し(図1)、茶道の宗家である千家、それに付随する茶道資料館、諸職人の住居などに圍繞されている。現在の所在は、織豊期の洛中再編によるものであり(図2)、現在では日蓮宗、法華宗と派を異にしているが、中世の洛中二十一本山に起源を持つ名刹である。

調査区域の墓地は同寺域の東北側に広がり、墓地中央には歴代祖師の供養塔とそれを取り巻くように有力檀那本阿弥家の墓碑などが存在している<sup>(6)</sup>。該当する無縁石造物は、墓域への参道右側に集積されている(後掲写真1)<sup>(7)</sup>。調査対象の無縁石造物は十六世紀から十七世紀の初頭、すなわち中近世移行期にかけて作成された墓石を多数含んでおり、現在では大半が無縁墓として墓地の一角に合祀されている。これら合祀された石造物のほか、墓域に散在する無縁墓石も加えて悉皆的に調査を行った。

調査の方法は、合祀されている無縁石造物のなかから該当する時代のものを選別し、一点ずつ写真撮影と拓本作成を行った。現状の石造



図1 近世初期本法寺周辺図

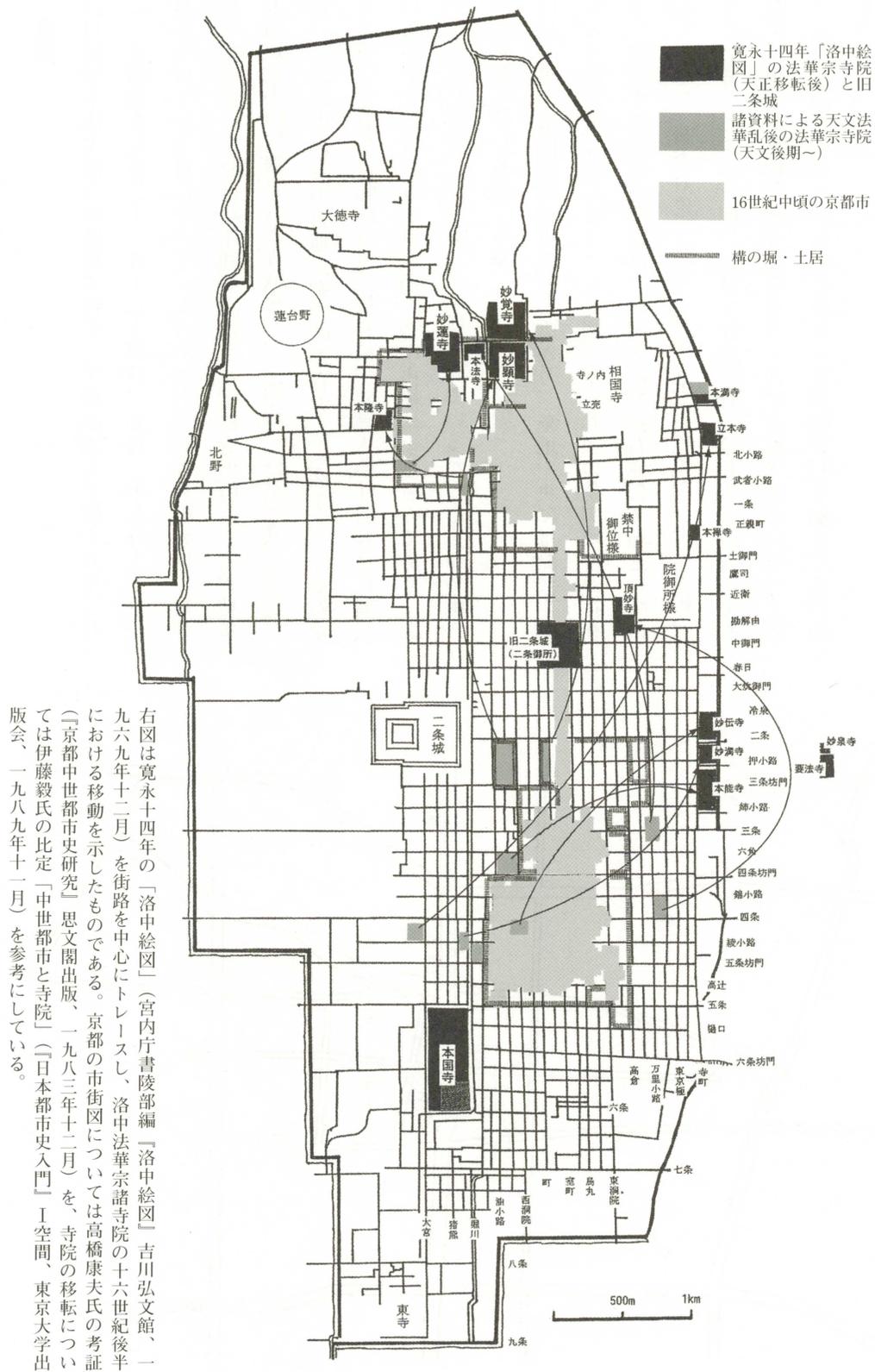


図2 中近世移行期における日蓮宗各寺院の所在

表1 本法寺無縁墓墓石

NO.	形状	天線	側柩	総高	空	風	火	水	地	幅	奥行	銘文	備考
1	一石五輪						7.7			12.0	9.4	連	
2	一石五輪								27.8	11.6	9.0	経/妙春靈/明曆三酉正月十日/妙心靈/万治三子三月七日	
3	一石五輪			5.6	3.5	5.2	6.8			10.5	9.0	妙法蓮華	
4	空塔婆身部		○	46.8						14.8	13.9	南無妙法蓮華經/高岳院妙善日修靈/明曆二壬辰年/五月十九日	
5	箱型		○	42.2						27.5	11.2	南無妙法蓮華經/善祐靈/壬寅/南無妙法蓮華經/妙壽靈/六月八日	
6	箱型		○	37.5						26.5	12.0	南無妙法蓮華經/慈父宗順靈/□□□□七日/□□慈母妙順靈/寛文四壬□年/四月十日 /慈父意安/逆修/悲母妙安靈位/寛永十四丁丑曆/五月四日	
7	一石五輪				5.3	4.0	7.5	8.0		13.8	10.5	妙法蓮華	
8	箱型		○	29.5						18.5	10.0	南無妙法蓮華經/宗□靈/寛永三年/十月十五日	
9	箱型		○	33.5						21.0	12.0	南無妙法蓮華經/父宗賢靈/天正五年八月四日/母妙善/逆修	
10	箱型		○	34.4						21.2	14.5	南無妙法蓮華經/慈父宗意/南無妙法蓮華經/悲母妙説カ	
11	箱型		○	36.5						22.6	14.5	南無妙法蓮華經/□慈逆修/□□靈/慶長五/ (欠損)	
12	箱型		○	39.3						21.7	10.0	南無妙法蓮華經/父祐念靈/寛永□年/七月廿二日/母妙祐靈/寛永十年/十二月十日 /南無妙法蓮華經/父宗□靈/寛永□年/五月廿三日/母妙□靈/寛永二年/二月廿日	
13	空塔婆身部		○	37.0						13.0	12.4	南無妙法蓮華經/慈父□淨靈/□□四年/□月□日/悲母妙□靈/逆修	
14	箱型		○	36.5						23.2	14.8		
15	箱型		○	34.3						21.0	10.0	南無妙法蓮華經/慈父妙悦/逆修/悲母妙久靈/慶長十四年/九月廿二日	
16	箱型		○	34.5						20.4	9.5	南無妙法蓮華經/宗□□□□□月八日	
17	箱型		○	33.8						23.4	13.0	南無妙法蓮華經/圓樹院宗林日□靈/□□□□正樹院林青日妙尼/延宝二甲寅年四月七日	
18	空塔婆身部		○	44.3						14.5	13.7	奉納妙經全部/南無多宝如来/南無釈迦如来	
19	一石五輪								25.0	14.8	14.1	経/松□靈/天正廿年?/□月□日	
20	板碑型		○	44.6						20.8	11.0	南無妙法蓮華經/道壽逆修/妙壽靈/慶長五年/三月七日	
21	一石五輪								20.5	10.3	8.6	経/妙善大姉カ靈位/寛永甲□九年/□月□日	
22	板碑型	1	○						50.0	24.0	11.8	南無妙法蓮華經/妙光興□/明珍妙□/妙順/妙圓/妙善□□□□/ (欠損)	左中程欠損
23	一石五輪			6.0	3.5	6.8	5.8	18.0		11.0	11.0	妙法蓮華經/両童女靈/法妙/寛永八十二月□日/妙長/寛永八十二月廿七日	
24	板碑型	2	○	46.0						24.4	14.0	南無妙法蓮華經/逆修/慈父宗法靈/永正十年四月□日	
25	板碑型	2	○	43.2						22.8	10.5	南無妙法蓮華經/父□圓靈/文禄五年/三月廿九日/母妙□靈/慶長十四年/八月廿八日	
26	板碑型	1	○	49.8						21.2	11.5	南無妙法蓮華經/宗□靈/元和九年/十二月七日	
27	空塔婆身部		○	40.8						13.6	13.6	南無妙法蓮華經/慈父□□靈位/文禄□年/二月廿二日/南無妙法蓮華經/法泉尊靈 /南無妙法蓮華經/六親尊靈	
28	板碑型	1	○	41.8						20.0	15.3	南無妙法蓮華經/□□靈/慶長□年/妙泉逆修	
29	板碑型		○	42.0						25.4	11.2	法蓮華經/祐心靈/元和九年/五月十五日/妙林尼/寛永八年/五月廿八日/妙瑠カ尼/ 承応元年/八月廿一日/妙長□	上部欠
30	板碑型	2	○	52.5						22.0	12.7	南無妙法蓮華經/逆修/善正/妙福	
31	一石五輪		○		9.4	5.3	9.0	8.7		16.5	14.6	妙法蓮華	
32	板碑型		○	27.3						19.4	10.5	法蓮華經/妙鏡/元和六年/七月十二日	上部欠

33	板碑型	1	○	55.0					27.0	12.0	南無妙法蓮華經□□文祿□□月□日	
34	板碑型	1	○	52.6					28.2	12.0	南無妙法蓮華經妙善靈覺永元年三月□日妙靈覺文二年二月□日□□靈/□□靈妙□逆修/□□靈/□□廿七日	
35	板碑型		○	52.0					23.2	11.0	南無妙法蓮華經妙靈慶長廿年二月十九日	
36	板碑型	1	○	57.5					28.5	9.5	南無妙法蓮華經慈父遺妙力逆修/	
37	板碑型		○	36.0					24.5	10.3	法蓮華經母妙徳力靈/□□正月□日父宗永靈慶長□年八月□日父浄永靈/天正十四年三月廿八日母妙尼/二月二日	上部欠
38	箱型		○	36.4					18.5	11.8	南無妙法蓮華經常幸逆修文祿四年法幸禪定五月十六日	右欠
39	笠塔婆身部		○	21.3					21.0	7.0	南無妙法蓮	下部欠・納あり
40	板碑型	2	○	44.2					20.9	10.0	南無妙法蓮華經慈父□□靈天文□□十二月十八日慈母妙□靈天文四年□月□	
41	板碑型		○	25.5					21.0	12.5	蓮華經/□□妙□靈慶長十二年正月廿日	上部欠
42	板碑型	1	○	43.1					21.4	9.0	南無妙法蓮華經妙□靈妙□靈天正□年□□□□□□□□□□四月三日	上下分離
43	板碑型	2		48.3					24.0	12.3	南無妙法蓮華經慈父回清靈天正二年七月一日慈母妙□慶長二年四月九日	
44	笠塔婆身部		○	40.0					22.3	10.0	南無妙法蓮華經妙□□□□□	
45	板碑型	1	○	39.0					19.0	10.8	南無妙法蓮華經妙願尼妙□尼妙清尼□□□□□□□□□□妙文	一部欠損
46	箱型			47.4					27.5	14.8	南無妙法蓮華經法□靈位慶安二年八月廿日	
47	板碑型		○	73.5					28.4	13.6	南無妙法蓮華經法□靈位慶安二年八月廿日	
48	板碑型	2	○	48.0					20.7	10.0	南無妙法蓮華經照清逆修母妙喜尼天正十六年七月廿六日	
49	板碑型	1		42.3					19.8	10.5	南無妙法蓮華經母妙福禪尼永祿□年七月□日父宋文禪門永祿□□年八月七日	上部欠
50	一石五輪				6.0	3.0	5.0	6.0	9.6	8.2	妙法蓮華	
51	箱型		○	25.8					21.7	8.8	法蓮華經妙利慶長カ二子正月二日宗善/□□宗意	上部欠
52	板碑型	1	○	46.0					20.0	10.5	南無妙法蓮華經□□□□□□天正十二年六月二日/母妙久□□	
53	板碑型	1		45.0					21.0	11.8	南無妙法蓮華經日慶父□□亥正月十日妙慶□□母妙亥十二月二十八日	上部欠
54	一石五輪						7.1	6.3	11.0	9.8	蓮華經法齋力靈文祿三年七月十二日	
55	一石五輪					4.0	8.5	9.3	14.0	12.0	法蓮華經日現靈慶長八年九月六日	
56	板碑型	1	○	23.8					18.5	7.0	南無妙法蓮華經□□□□	下部欠
57	板碑型		○	37.0					20.3	11.7	南無妙法蓮華經妙圓逆修妙寂靈天正二年五月七日	上部欠
58	一石五輪						5.0	5.7	11.0		蓮華經大妙少位カ天正六年	右半分欠
59	一石五輪					6.0		4.5	9.5	8.5	妙法	
60	箱型		○	18.5					20.4	10.5	南無妙法蓮華□道□妙□	下部欠
61	一石五輪								12.3	10.5	經逝去妙各禪尼覺永十五年七月十五日	64と一体
62	一石五輪						6.3	7.0	11.3	9.8	蓮華經法善禪定門明曆二年カ六月廿五日	下部少欠
63	板碑型	1	○	44.0					20.0	11.7	南無妙法蓮華經慈父宗善慈母妙喜靈	
64	一石五輪					5.8	3.5	6.4	12.3	10.5	妙法蓮華	61と一体
65	一石五輪					9.7	7.0		11.0	10.5	妙法	
66	一石五輪			19.5					11.3	9.0	經宗智童子慶長六年五月三日	
67	一石五輪						7.3	7.6	16.3	10.5	蓮華經道法靈妙永逆修天正十九年十二月廿二日	



102	箱型・板碑型	○	17.2					21.6	14.1	經/法界/□□四年/□□批皆/□□□□	上部欠
103	五輪塔			11.4	9.6	よいか		14.3	14.7	妙法	
104	箱型・板碑型	○	31.8					20.3	11.7	蓮華經/□□位/七月/廿九日/妙樂位/十月/十二日	上部欠
105	一石五輪					6.3	7.4	10.3	10.3	經/妙玉靈/久甫靈/宗意/逆修/妙和靈/妙蓮/逆修	
106	箱型		68.0					33.0	13.5	蓮華經/父/妙宗靈位/十一月/廿日/南無妙法蓮華經/母/妙光靈位/正月/廿二日	
107	箱型		47.0					25.5	12.5	蓮華經/□地/萬靈/文明/十二月/三十日	花崗岩
108	五輪塔						23.0	24.5	24.5	華	花崗岩
109	五輪塔						19.0	23.0	23.0	華	花崗岩
110	箱型	○	25.5					21.0	15.0	妙法蓮華經/宗賢/逆修/無妙法蓮華經/妙蓮位/天正十四年/八月/十七日	上部欠
111	箱型	○	31.5					17.5	10.0	妙法妙幸靈尼/至永元年甲申/五月/六日/廿九日	上部欠
112	箱型	○	34.8					22.0	12.0	南無妙法蓮華經/悲母/妙淳靈/天正元年/九月/廿四日/妙言/永十二/正五/妙最/天廿/十一/□法言/永十三/□□妙蓮/永七/□□	
113	一石五輪					8.0	9.8	15.5	14.9	蓮華經/父/宗連靈位/母/妙□靈位/寬永□□年/六月/□□日	
114	箱型	○	33.0					22.0	14.5	南無妙法蓮華經/慈父/了性/天正十四年/四月/二日/悲母/妙蓮/逆修	
115	板碑型	1	42.9					20.2	14.3	南無妙法蓮華經/□宗/□□慶長十八歲/四月/廿八日	
116	板碑型	○	32.0					21.7	11.0	妙慶日等/十一月/十二日/智超/妙月	上部欠
117	箱型	○	33.5					21.0	12.6	南無妙法蓮華經/祖父/□□位/永祿元年/八月/二日/南無妙法蓮華經/祖母/妙善位/天正十二年/五月/四日	
118	箱型	○	34.3					19.1	12.0	南無妙法蓮華經/慈父/□□逆修/悲母/妙蓮/□□正九十四年/十月/十五日	
119	箱型	○	38.5					23.9	11.7	南無妙法蓮華經/□□宗善位/天文十三年/十二月/九日/妙□□□逆修/妙順	
120	板碑型	1	46.7					21.4	11.5	南無妙法蓮華經/□□禪門/寬永□□年/七月/十二日	
121	箱型	○	35.5					21.4	11.0	南無妙法蓮華經/慈□宗智靈/正保二年/閏五月/十八日/嚴□妙蓮靈/寬永廿□未四月廿四日	
122	箱型	○	34.0					22.6	9.9	南無妙法蓮華經/淨蓮カ靈/慶長三年/三月/二日/南無妙法蓮華經/妙□尼	
123	箱型	○	36.0					22.2	11.7	南無妙法蓮華經/慈父/宗春靈/慶長四年/七月/廿七日/悲母/妙忍靈/慶長五年/正月六日	
124	板碑型	○	31.1					19.2	15.2	□無妙法蓮華經/弘善/逆修/妙善/天正十一年/二月/四日	上部欠
125	板碑型	1	45.4					22.5	16.5	南無妙法蓮華經/慈父/宗蓮/天正十二年/四月/八日/悲母/妙福位/天正九年/二月/九日	上部欠
126	板碑型	○	50.6					24.1	11.6	南無妙法蓮華經/先□常林靈/承応二年/五月/三日	
127	箱型	○	34.3					23.2	8.9	南無妙法蓮華經/為宗信/逆修/元和二丁丑年/九月/廿日/南無妙法蓮華經/為妙信靈/天正廿□辰/六月/三日	
128	箱型	○	37.4					23.2	11.9	南無妙法蓮華經/遠照院/光栄日□靈/寬永十一閏霜月□八日/法樹院/妙栄日林靈/寬永七曆十二月九日	
129	箱型	○	36.3					21.3	16.4	南無妙法蓮華經/祐宗靈/父即カ心靈/母/妙法靈	
130	箱型	○	34.6					14.4	13.2	南無妙法蓮華經/為妙音/禪尼/寬永四丁卯年/五月/廿一日/南無釈迦如来/南無多宝如来	上部欠
131	箱型	○	32.8					21.4	13.9	南無妙法蓮華經/宗於靈/妙淨靈/了祐カ靈/妙音靈/幻智靈	
132	板碑型	○	26.4					23.9	10.8	□正十五□月九日	上部欠
133	一石五輪	○		7.7	4.2			10.9	10.5	妙法	
134	箱型	○	8.4					18.4	13.2	□開靈	右下部のみ

135	一石五輪		○		6.2	4.0	6.7	6.5		12.8	11.4	妙法蓮華		
136	一石五輪		○						20.4	10.3	9.1	経/受身聖靈位/寛永四丁卯年/十月十七日		
137	箱型		○	35.7						21.3	10.4	南無妙法蓮華經/宗善靈/文禄三年十一月晦日/南無妙法蓮華經/妙善逆修		上部欠花崗岩
138	箱型		○	48.3						23.1	9.2	南無妙法蓮華經/善/正十九		上部欠
139	箱型		○	48.5						15.7	15.2	南無妙法蓮華經/道林禪門靈/于時長享三年/九月七日		下部欠
140	板碑型	1	○	32.4						25.9	15.6	南無妙法蓮		下部欠
141	五輪塔						18.0			31.5	30.5	蓮		花崗岩
142	五輪塔							17.5		22.5	22.5	華		花崗岩
143	五輪塔							17.0		17.0	17.0	華		花崗岩
144	五輪塔							20.0		24.0	24.0	華		花崗岩
145	一石五輪				8.0	6.0	9.0	9.0		13.0	13.0	妙法蓮華		
146	一石五輪				10.0	5.0	11.0	9.0	31.0	17.0	17.0	妙法蓮華經/恵光院日熙靈/寛永四年/四月十二日		
147	一石五輪					3.0	6.0	6.5		11.0	8.5	法蓮華		
148	一石五輪						5.5	6.0		10.0	8.5	蓮華		
149	一石五輪				7.5	4.0	9.5	8.0		13.5	12.0	妙法蓮華		
150	一石五輪					5.0	7.5	9.0	29.5	17.0	15.0	法蓮華經/了語カ靈/寛永□年/□月四日/喜逆修		
151	一石五輪				8.0	6.0				10.0	10.0	妙法		
152	箱型		○									南無妙法蓮華經/永□禪定門/寛永四年/五月廿□日/□□□□定尼/元和四成年/九月□日		
153	箱型		○									南無妙法蓮華經/□□□□□□長禪定尼/逆修		
154	五輪塔				24.5	11.5	23.5	31.5	31.0	39.0	38.0			
155	板碑型	2	○	203.0						46.0	32.0			
156	一石五輪						5.5	6.0		10.5	10.0	蓮華		
157	一石五輪				9.0	5.0	9.5	8.0		16.5	12.0	妙法蓮華		
158	一石五輪				7.0	3.0	6.0	6.0	16.0	11.5	10.5	妙法蓮華經/母妙慶/慶長□□/十月九□		下部欠
159	板碑型		○	156.0						48.0	38.0	六親眷属/春/道林/□□/□□		
160	一石五輪				8.5	3.5	7.5	9.5	30.0	15.0	11.5	妙法蓮華經/宗昧禪定門/寛永廿年/十月廿六日		
161	一石五輪						8.0	8.5	26.0	15.0	14.0	蓮華經/宗運靈/寛永六巳巳年/六月四日		下部少欠
162	一石五輪				10.0	4.0	8.0	9.5		14.5	12.5	妙法蓮華		

\* 墓石通番は合祀された墓石群の排列を反映している (左→右、前→奥)。

\* 墓石の選択は、過去の調査結果から得られた知見をもとにおこなった。中近世移行期の造立にかかると判断されたものを対象とした。結果的に一部時代の下るものも含んでいる。

妙覺寺無縁墓臺石 (補遺)

NO.	形状	天線	側粹	総高	空	風	火	水	地	幅	奥行	銘文	備考
1	一石五輪			24.8	7.2	4.0	6.0	7.0	24.8	13.7	10.8	經元和	
2	一石五輪				7.2	4.0	6.0	7.0		13.7	10.2	妙法蓮華	
3	一石五輪								20.6	11.7	11.3	經妙福靈/慶長十一丙午年/五月十日	左下少欠
4	一石五輪				7.2	3.5	6.6	6.3		11.6	9.6	妙法蓮華	
5	箱型			28.5						17.6	8.8	南無妙法蓮華經/妙國靈位/元和三年/三月十六日	
6	笠塔婆			24.1						13.1	13.2	南無妙法蓮華經/天正十	下部欠
7	一石五輪					4.3	7.5	9.6		14.5	14.5	法蓮華	
8	板碑型	1	○	37.8						17.1	7.1	華經/宗源靈/妙清靈/二月/十五日	上部欠
9	一石五輪						8.5	6.6		13.1	11.0	蓮華	
10	一石五輪							9.4	8.5	13.9	13.7	華經/法西靈/元和八壬戌年/八月廿二日	地輪下部欠
11	一石五輪				7.5	4.3	7.1	7.3		13.6	12.8	妙法蓮華	
12	一石五輪				10.2	4.0	8.7	6.6		17.2	14.9	妙法蓮華	
13	笠塔婆			18.3						12.8	12.3	蓮華經/華經/妙□靈	上部欠
14	箱型			29.5						19.6	10.1	南無妙法蓮華經/永順靈位/寛永三九月十二日/妙幻ノ逆修	上部欠
15	板碑型	1		46.9						21.2	10.7	南無妙法蓮華經/慈父宗善靈/天正十六年/九月十六日/悲母妙泉靈/九月廿五日	
16	一石五輪				8.4	4.2	7.8	7.5	21.2	13.0	13.7	妙法蓮華經	
17	一石五輪				6.5	3.8	7.0	7.0	17.4	11.3	11.2	妙法蓮華經/道春禪門/永禄九年/八月廿日	
18	一石五輪						7.2	8.3	29.2	13.0	12.8	蓮華經/妙福/文禄□年/□□□□/宗□靈/妙□靈	
19	一石五輪			6.8	3.2	5.6	6.5	10.5	9.2	10.5	9.2	妙法蓮華經/妙有ノ禪尼/慶長十四乙酉年/九月廿日	
20	一石五輪				5.0	10.2	11.8	29.3	17.5	16.5	16.5	法蓮華經/□□尊靈/天正カ八年/八月十四日	
21	一石五輪						7.5	6.5	18.2	13.3	9.8	蓮華經/□□□□/文禄□年/五月□日	
22	板碑型		○	36.5						17.8	9.2	南無妙法蓮華經/□□□□/□□□□	下部欠
23	一石五輪	1	○	7.4	3.2	6.8	8.8	8.8	21.8	12.0	11.0	妙法蓮華經/妙與靈尼/文禄四乙未年/三月四日	
24	一石五輪								26.8	14.5	13.5	經/法意靈/文禄三年甲午/正月廿七日	
25	一石五輪						6.2	7.0	11.2	11.8	11.7	蓮華經/道□□/寛永□□	下部欠
26	笠塔婆身部		○	25.2						15.2	15.0	十一年癸未/□□晦日/□□光宗□□尼靈	上部欠
27	一石五輪								26.2	14.8	11.6	經/妙源靈尼/寛永五甲□年/十一月□日	
28	一石五輪					6.4	5.5	5.5	23.1	12.1	9.7	蓮華經/妙清靈/寛永十三丙子年/十月十三日	
29	一石五輪					9.2	9.3	26.3	15.7	14.6	蓮華經		
30	一石五輪				8.4	4.7	8.5	9.4		16.2	12.0	妙法蓮華	
31	一石五輪				6.6	3.2	6.8	7.1		11.0	8.7	妙法蓮華	
32	一石五輪				8.0	4.0				8.3	10.0	妙法	
33	一石五輪				8.7	4.3	9.8	8.2		12.6	14.4	妙法蓮華	
34	一石五輪				5.6	3.9				9.6	8.5	妙法	
35	一石五輪				8.9	4.1	7.3	8.7		14.0	13.1	妙法蓮華	
36	一石五輪						5.0	5.6		9.9	7.5	蓮華	
37	一石五輪				10.0	4.4	8.0	8.4		15.7	13.2	妙法蓮華經	
38	一石五輪				6.5	6.6				10.0	11.2	妙法	
39	一石五輪				8.5	5.0	7.6	7.6		15.6	13.0	妙法蓮華	



物配置は後年になって人為的に集積合祀されたものであるため特別な意味はなく、石造物個体を特定する情報は必要なしとして調査対象とはしなかった。これら石造物は主に形態ごとに板碑型・一石五輪塔・笠塔婆身部・箱型・船型に分けることができ、それぞれの総高・幅・奥行、一石五輪塔にあつては空・風・火・水・地各輪の高さも調査した。石造物の表面は経年により非常に摩耗しており、紀年銘の十全な解読はかなり困難であつた。<sup>8)</sup>右の形態による分類を主分類としつつ、法量等を加え、これに紀年銘や欠損の状態を加えて表にしたのが表1である。

なお、表1には先稿の補遺として妙覚寺墓地内に「散在」している無縁墓石についても後掲した。<sup>9)</sup>妙覚寺の無縁墓石群については、拙稿「京都妙覚寺墓地の無縁石造物考―中近世移行期の葬送と石塔造立―」において公表しているが、ここでの報告は合祀された無縁墓石群を中心にしたものであつた。<sup>10)</sup>調査当初よりこれら石造物の存在には気づいてはいたが、あるものは地中に埋没し、あるものは現在でも個人墓地内で供養されているため、ひとまず調査から除外していたものである。これらの中には絵師狩野家累代の供養塔、陶工である楽家の供養塔も含まれるが、既に概略は報告されているため本表では割愛してある。<sup>11)</sup>

## 2 所見

本法寺墓地無縁石造物群の調査と整理を通じて検出できる所見をここでまとめてみたい。なおここで述べる石造物番号は表1の番号に対応しているものである。

今回の調査では、参考に取り上げたものも含めると総数で一六〇点余の石造物を検出した。大半の石造物には題目(「南無妙法蓮華經」の全部もしくは一部)が刻まれており、本法寺墓地に現存することとあわせて、日蓮宗檀那のものと考えてよからう。<sup>12)</sup>

このうち様式的に最も多いのが一石五輪塔、板碑型の形態を持つもので、笠塔婆身部がこれに続く。また作成年代順にみると、一番古いものは文明十二年の箱形墓石であり(No.107)、以降元亀・天正・文禄の各時代で、約五〇点を数える。さらに慶長・元和・寛永期のものが約五〇点で全体の三分の二以上が年号を明らかにしうる紀年銘を持つ。紀年銘を持たないものも様式的には同一の時代性を表していると考えてよく、中近世移行期の京都市中墓地資料としては有益なデータを提供するものと考えてよい。<sup>13)</sup>

紀年銘による作成年代と各様式に相関はみられず、十七世紀に箱型墓石が隆盛する以前は、これら三者が渾然としていたと考えることができよう。<sup>14)</sup>

特に板碑型と一石五輪塔の紀年銘は共通項が多く、題目・法名・没年(もしくは供養年)が記される。このうちの多くが「靈位」「靈尼」「父」「母」「童子」(No.66)などとして、法名を単体で記しており、当該期石造物紀年銘の一般的なあり方といえるだろう。ただ、「慈父・悲母」(No.63、82、114、125)「父・母」と刻まれている例があるので、法名が左右に刻まれているものは夫婦の供養塔と考えることができ。この点では「靈(位)・靈尼」(No.17)と書き分けられている場合もある。また男女は不明であるものの法名と逆修名が併記されているも

のもかなりある。「父・母」「慈父・悲母」とした上で片方が逆修名であるものがあり、夫婦関係を包含しているものもあると思われる。これら夫婦・親族による石造物造立は時代的な傾向は見られず、むしろ中近世移行期を通じて継続的にみられる点が興味深い。

家族関係を示すものとしては「六親」「六親眷属」とする例や、単体で「童女」「童子」「童霊」などとするものがある。このような供養形態は一族的な信仰があつて初めて可能なもので、中世末期における信仰のあり方をよく示しているのである。

紀年銘に逆修名を含むことは、配偶者や子孫による故人の供養と考えることができるが、逆修名しか記されていない紀年銘もあり、石塔造立の機縁が必ずしも故人没後の供養だけにはとどまらなかったことを示している。おそらく特定の個人を追善するという意識の他に、縁を持つ精霊そのものの鎮魂を目的としての石塔造立ということ、すなわち「結縁」供養があるのであろう。

### 3 評価

概要と所見で得た考察から、これら無縁墓石群の歴史資料としての位置付けをおこないたい。

石造物群は大半が板碑型・一石五輪塔型によって占められるが、慶長年間以前の紀年銘から判断する限り、個体数の時代的な分布に偏りはみられない。特に洛中寺院の移転が大規模に行われた天正十年代前半を境として、数量に著しい差がみられないことは重要である。現状では一年あたり二点ほどの石造物から判断せざるを得ないが、中近世

移行期を通じて継続的に石塔造立が行われていたことの証左となる。このことは、当該期の日蓮宗檀徒の信仰形態を考える上では非常に重要である。墓制や先祖供養といった文化的に保守的な事象は、宗教組織のあり方について文献史料以上に雄弁な場合がある。中世から近世の移行期は、洛中に遺された史料、とくに宗教社会的なあり方を示す史料は極めて限られているが、そこで得られる像、認識と実際の乖離をこれら石造物は示している。

多くの洛中内日蓮宗系寺院は郊外に中興開山や本山にとって重要な人物の廟所を有している。前掲の註(5)でも述べたように、本法寺の廟所は洛東の本寿寺であり、寺院と墓所との関係はこれら廟所寺院の考察で十分とする向きもある。しかし現実には、洛中内部寺院には墓所が設けられ、中世末期以来の墓標が遺存しているのである。これは寺院と地域、寺院と檀徒の関わりが密接である日蓮宗系洛中各本山に特徴的な事例であり、それが天正期における寺院移転後においても「墓標」というかたちで徴証をのこしているのである。

後掲の表2は、天正四年段階で本法寺によって把握された檀徒の一覧であるが、移転後の寺地からは距離のある地域の信者も多い。しかし、複数回なされた移転以前の寺地との関係で見れば、密接であり、寺院と地域との関係が継続していることを示しているのである。信仰における寺地と地域、血縁などの関係も自ずと理解されるのでは無からうか。

今後、現在調査継続中である日蓮宗系寺院墓地の同様な墓標について報告をしてゆくが、これら石造物の分析により、中近世移行期の日



- (4) 各石造物については、調書を作成した上、写真撮影と拓本の採取を行っている。紙数の制約上、本稿ではデータのみを一覧表とするとどめているが、後日報告書作成に際しては主要な石造物の拓本等を掲載する予定である。
- (5) 本法寺の廟所は、洛東化野の本寿寺に存在する。本寿寺の墓域は日像上人の荼毘所に起源を持ち、歴代祖師の供養塔も本法寺とは別に存在している。両墓域が併存する点については、本文にて後述する。
- (6) 歴代祖師供養塔、本阿弥家墓標については本報告では割愛し、別稿に記す。両者とも十六世紀の紀年名をもつ石造物を含むが、石材等の観察から後年における再造立の可能性も考えられ、別稿での考察が相応しいと判断した。
- (7) 本法寺貫首大塚泰詮下のご教示によれば、これら無縁石造物群は本来墓地参道の両側に集積されていたものであり、本法寺会館を建築した際に現在のように合祀されたことである。
- (8) 紀年銘の読解は拓本を主とし、適宜写真と現地でのメモを基にしておこなった。
- (9) 妙覚寺墓地には、絵師である狩野家の墓や陶工楽家の墓など歴史的著名人の墓も多い。現在の墓地は、本堂に近接する墓地と堀川通りに接する墓地に分けられるが、前者は塔頭墓地から一部分化したものであり、本稿で対象とした無縁石造物が合祀されているのは後者である。
- (10) 『神奈川県立博物館研究報告（人文科学）』（第二十八号、二〇〇二年三月）。調査は科学研究費補助金（研究課題「室町時代後期における非文献資料を利用した地域文化（信仰）伝播の基礎的研究」、課題番号一三七二〇二〇八）による。
- (11) 関根龍雄『京都本山妙覚寺史』（京都日蓮宗本山妙覚寺、一九九〇年十月）。
- (12) 狩野家、楽家の供養塔は、中近世移行期以来のものが連綿と残るが、近世中期から後期に及んでもその形態は一石五輪塔を用いている。紀年名には「南無妙法蓮華經／宗清靈位／慶長五庚子年／十月三十日」と記している。また、近年台座の一部はあらためられたようである。近世期に改修がくわえられて

いる点も考慮されなければならないだろう。

- (13) 題目以外では、一石五輪塔に梵字を五文字刻んだものが見られる。このうちの二点（No.73・141）は白味がまざる花崗岩である。無縁石造物群全体で花崗岩は一〇点に満たず、本法寺歴代の笠塔婆などを作る材であることを考えると、材と銘文には何らかの関連がある可能性がある。
- (14) もちろん様式的に該当しないものは調査の段階で除外したのであるから当然かもしれないが、これ以降に造立された墓石は現在も墓地内部で子孫によって祀られているものが多いことも様式的に偏りが生じる理由となるのである。
- (15) もちろん、以前拙稿（「越前における法華宗の展開と法華経信仰―敦賀・河野浦・一乗谷を結ぶもの―」『国立歴史民俗博物館研究報告』第八三集、二〇〇〇年三月）で述べたように、紀年銘を持つ資料数が今後多く検出できるようになれば、地域的・時代的な傾向が現れると思われる。
- (16) 但し定型句である可能性はある。
- (17) 先に見た夫婦間の供養塔造立もこの例である。
- (18) 表2作成の基礎史料とそこで洛中本山によって行われている勧進については、拙稿「天正四年の洛中勧進」（『古文书研究』第三十六号、一九九二年十月）参照。
- (追記)  
本調査は科学研究費（非文献資料を利用した中世都市における基層信仰の研究）課題番号一七六八二〇〇二の成果の一部である。調査の実施に際しては、大本山本法寺貫首大塚泰詮下よりご理解を賜り、ほか寺内各位のご協力を得た。記して感謝申し上げる。



写真 1



写真 2

本法寺墓地内にある無縁墓の合祀場所

本法寺の無縁墓は寺域北東にある墓所の入口付近に位置している（写真1）。かつては墓地参道の両側に集積されていたが、本法寺会館を新築するにあたり現在の位置に合祀し直している。無縁墓は、大概六列に並べられているが、本稿で論及した古様の墓石は各列の隙間に配置されているものが多い。また、整序された墓石群と墓域区画壁との間にも該当の墓石が多数存在している（写真2）。

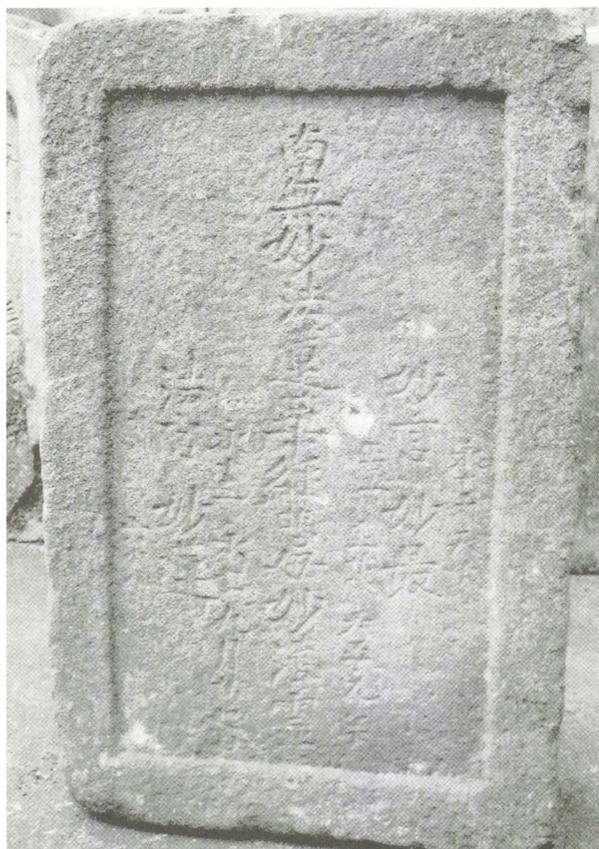


写真 4



写真 3

#### 古様を示す墓石

墓石の時代による形態変化は、これまでに報告した日蓮宗系墓標の場合とほぼ等しい結果となる。古様墓石の特徴は、墓石側枠と墓石表面の段差が少なく、墓石中央に刻まれた題目の下に立体的な膨らみをもつ台座が彫出されている点にある(写真3)。内容面では、複数名の法名が命日、逆修名などとともに刻まれ(写真4)、また、夫婦の合祀墓と思われる双行の碑文も認められるのである(写真5)。

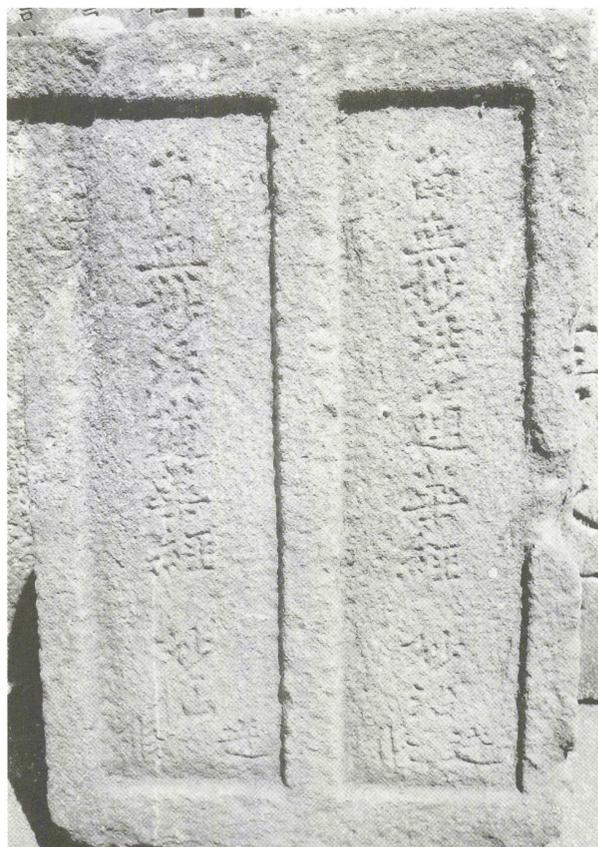


写真 5